

樹 皎

すべて筆先は藏鋒で書きます

止めずに ゆったり払う

寒 夜

直筆  
中鋒でゆくり払う

① 倣書とは、古法帖から感じられる結体、結構、性情をもとにして作品を作ること。

② 鄭義下碑は、北魏時代の鄭道昭の書で、岩壁に刻いた石碑である。うねりを帯びていて雄大で、円勢（丸みをおびた趣）に富んでいる。

③ 鄭義下碑を倣書で書いています

④ 鄭義下碑は、北魏時代の鄭道昭の書で、岩壁に刻いた石碑である。うねりを帯びていて雄大で、円勢（丸みをおびた趣）に富んでいる。

⑤ 倣書とは、古法帖から感じられる結体、結構、性情をもとにして作品を作ること。

皎夜千樹は寒し

清らかな月明かりの夜、すべての木々は寒々としている。月光に照らし出された冬の夜の山寺の景を描く

（唐・李羣玉の詩より）